

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年9月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800214
法人名	社会福祉法人隆愛会
事業所名	賀寿園グループホーム愛
所在地	鹿児島県志布志市志布志町安楽2814 (電話) 099-473-8186
自己評価作成日	平成26年8月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年9月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症」に関する勉強会もテーマごとに毎月開催しています。職員が認知症について学びながら事業所の理念を理解・共有できるように励んでいます。そして、日々の関わりの中で個々の入居者様が求めるものは変化するが、可能な限り「その人らしい尊厳のある生活」の実現を目指しています。またご家族様との繋がりもサービスを提供していく場面はもちろんのこと、年間行事としてご家族を迎えての食事会の開催、グループホームでの日頃の生活ぶりを知っていただくための、毎月、広報誌を発行しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、母体法人により特別養護老人ホームやデイサービス、訪問介護事業所、在宅介護支援センター、ケアハウスなどが併設され、法人設立者の遺志「和顔愛語」は、ホームの理念同様に職員に浸透し共有されている。
- ・地域が高齢化する中で、事業所は施設行事への積極的な住民の招待や、地域の行事へ利用者の参加を支援することで、利用者が地域と交流できるよう外出の支援を積極的におこなっている。
- ・利用者家族とは、運営推進会議や家族会(懇親会)などを通じて、意見交換し普段はいつでも要望、意見が出せるような雰囲気作りに努めている。また、毎月のお便りにご意見・ご要望用紙を同封してより良い事業所運営に繋げている。
- ・職員は、内部研修にて自己研鑽し、外部研修については管理者が個人の能力やスキルに応じて参加を勧めるなど支援している。
- ・利用者や家族には、契約の折に重度化した場合や看取りについて文書で説明し、管理者、職員、医師、関係機関と話し合い、事業所が対応し得る最大限のケアについて段階に応じて説明するとともに、方針を共有し連携を図りながらチーム支援に取り組んでいる。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念として、「個人の尊厳を大事にする」ことを職員間で共有している。理念に基づき、「尊厳」「その人の思い」に寄り添いサービス提供につとめている。重要事項説明書等に記載し、契約し時に説明をしている。	法人設立者である理事長の思いをこめた「和願愛語」をはじめ、ホーム独自の理念もユニット会議や職員会議などで共有し職員一人ひとりに浸透しており、日々のケアにフィードバックし常に意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材買物等は入居者様が主体的に参加できるように関りをもっている。日常的な外出支援も含めて、入居者様個々において実践している。墓参り・散髪など馴染みの場所へ職員と一緒に出向き、職員がその地域の方々とのコミュニケーションを通じ、同サービスについて情報提供をしている。	地域は、高齢化などで日常のお付き合いが厳しい状況にある。ホームは、校区行事（運動会・月見会など）への参加や旧正月に正月踊りに招待するなど、地域住民との触れ合いの場を大切に支援している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	人材育成の一環として、認知症介護実践者研修の受け入れや各ボランティア受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期開催することで、左記の内容について報告させていただいている。当施設の議題はもちろんながら、市役所福祉課と家族・民生委員との意見交換の場ともなっている。	会議は定例化しており、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望、情報提供やアドバイスなど出され、会議の内容は家族会や毎月の通信誌で報告し、家族にも周知している。	会議のメンバーを固定化することがないよう、できるだけ家族の参加が得られるような方策を検討されたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や実地指導、その他個別の案件についても、その都度、相談している。	市担当者とは、電話、FAXなどで連絡を取り、相談や助言など業務に活かしている。また、福祉事務所職員とも定期的に面談し、暮らしぶりやサービス状況など報告し、連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会において、マニュアルをもとに、実際のサービス提供場面で、どのようなことが虐待となるか職員間で共通理解をもてるよう取り組んでいる。やむをえず、身体拘束をさせて頂く場面が今後あれば、ご家族を交えて十分な話し合いをもち適切に処理していく。	高齢者虐待防止を含めた身体拘束の弊害について勉強会を年間計画に位置づけ、管理者、職員全員で年2回研修を実施している。外出傾向の方には、理念を念頭に「尊厳」をもって接し、安心して生活できるようさりげなく寄り添う姿勢を持ち、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会においてマニュアルをもとに、どのような内容が虐待となるか共通理解をもつよう取り組んでいる。その上で、潜在しがちな虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・一部の職員は、社会福祉士会が主催した権利擁護研修会に参加するなど学ぶ機会をもったが、ここ数年はその機会をもてていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者様とご家族に対し、文書・口頭で十分に説明し了解をいただいている。また、利用料金変更・文書改定時など、変更事項について明確に説明し、理解していただけるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様からの言葉・態度・表情などから、その思いに「気付く」よう努めている。また、年に一度の意見交換会などの開催、毎月、ご意見用紙を送付するなど機会を設けている。</p>	<p>利用者からは、日々のケアの中で言葉、様子などで意向を汲み取っている。家族からは、面談や家族会（懇親会）などで意見交換したり、個別に意見や要望を聞き取り、毎月「ご意見・ご要望用紙」も送付して意見を聞く機会を作っている。実際に家族から夜間避難訓練を見学してみたいとの意見もあり実施している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月職員会議を設けており、運営に関する提案をする機会を設けている。年間行事の反省、その他問題がある場合についても職員の意見を十分に聞いて施設運営に努めている。</p>	<p>管理者は、職員から意見が出しやすい雰囲気作り、環境整備に力を入れている。職員全員が前理事長の認知症高齢者に対する思いを共有し、何事も職員の意見を十分に聞き、話し合い、よりよい事業所運営に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個別ケアに徹するための手段として、職員の要望等を勘案してユニットケアの整備をした。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資質向上のため研修等へ積極的な参加、経費の負担をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流は、職員研修を通じて職員同士の取組み方や質の向上などの勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居が決定される前より、面談を通じて本人様の思いを把握できるように努めている。また、環境が変わることへの配慮も含めて、利用日開始より安心して過ごして頂けるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入前に、これまでご家族様が抱えてこられた悩みや不安、今後の希望等を聞く機会をいただいている。また、サービス導入中も、様々な面でご協力をいただけるように、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談があった場合、当サービスありきではなく、可能な限り、住み慣れた地域で住みつけることが出来ないか、また居宅サービス・他社会資源で支援が出来ないかをサービス導入前にご家族様を含めて検討するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様の生活のペースを大切しながら日常生活は過ぎていく。その中で、入居者様の喜びや悲しみ、その時々的心情を知ること努め、暮らしの中で分かち合える関係作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	市内・県外在住のご家族様であっても、定期的に来鹿して下さるなど、ともに本人様を支えていく関係性にある。その多くの機会を利用して、日々の様子を経過記録表をお見せしながら報告し、支援の場で活かしている。また、個別担当者は施設でのご様子を毎月、文書にてお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に馴染みの場所へご支援できる機会を設けている。具体的には、入居以前に利用していた美容院、かかりつけ医など、またご友人とのお付き合いなどが途切れないようにご家族様と共同で支援に努めている。	お墓、お寺参り、自宅への外出、外泊、いきつけの美容院への送迎介助など支援している。また、家族がホームに散髪に来られる方、友人、知人の訪問や電話など関係性の継続支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは、個別性も大切にしつつ楽しく過ごせるよう配慮している。また心身の状態や気分、感情の変化で周囲の方と上手く関わりが持てない場面では職員が調整役となっている。入居者によっては「あだ名」を使用されるなど馴染みの関係性ができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了した方に対しても、当時の写真をポスター紙等に印刷し職員のメッセージ付でお渡しするなどしている。また必要に応じて、本人様やご家族様と連絡を取らせて頂くこともある。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の自己決定を尊重し、選択していただくような場面を提供するように努めている。意思の表現がうまく出来ない方は、ご家族様から在宅時の生活歴を再度お聞きし、日々の関わりの中で本人様の場合とはという視点にたち職員間で取り組んでいる。	常に利用者や家族の視点に立ち、日頃の生活状況などで本人が何をしたいかどう暮らしたいかなど、家族の情報、筆談や会話などのコミュニケーションの中で職員全員で話し合い、情報を共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの暮らし、サービス利用に至った経緯を含め把握している。本人様の生活歴・趣味等を知り全体像をつかむことがケアにおいて重要であることをご家族様に了解をいただいた上で情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録表に、排泄・水分摂取量・食事分量等を記録している。また心身状態等、特記すべきことがある場合もこの記録表に記入し、当日ごとの朝・夕のミーティングで情報の共有化を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人様との関り、ご家族様との関り、職員の気付いたことなど、介護計画に反映するように努めている。意思疎通の困難の方もいるが、ご家族様に意見を求めながら、本人様本位の計画作成に努めている。サービス担当者会議には、ご家族様にもお立会いしていただき、サービス提供についてご説明をしている。	アセスメント、モニタリングを繰り返し設定期間ごとにモニタリングしながら、随時必要時計画の見直しをして本人主体でその人らしく地域で暮らし続けるための介護計画を作成している。担当者会議は、家族の参加を積極的に促し意見交換することで、本人、家族の意向や希望が反映したものになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を経過記録に記入している。一枚の記録用紙で多くの要素を記入できるよう工夫し、記録用紙からも「気づき」が出来るように、職員間で情報共有に努めているが、この点については、どのようにすれば情報を共有することができるか常に考えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族様の希望で外泊・外出の際は、これまでの介護過程等を再度ご家族様にご説明するなどして、円滑に外出・外泊が可能になるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者様や、ご家族様が安心して過ごして頂けるよう消防署や関係機関、近隣の方の協力をいただいて年2回防災訓練を実施している。かかりつけの美容室への移動支援など、個々の入居者様に応じた対応をとらせていただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設入居にあたって、これまでの関係性が断たれることは好ましくなく、本人様やご家族様の希望にそって入居以前からのかかりつけ医を利用したり、入居後もご希望に応じてかかりつけ医を変更していただくなど適切に対応をしている。</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医となっており、協力医療機関とは24時間医療連携が図れるしくみがある。他科受診は、職員が同行するなど支援している。訪問歯科診療や認知症専門医などに内服薬の相談などもしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤で看護職員を配置しており、入居者様の健康管理についても、記録様式を整備し、介護職と連携し受診支援や、日常の健康管理に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は、本人様のこれまでの経過・状態変化を医療機関へ情報提供し、環境が変わることへの支援・回復・退院に向けたアプローチを医師・MSWをはじめとした相談職を交え支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期、看取りケアのに向けて看取りに関しての指針を作成している。事業所でできる事を具体的にメリット、デメリットを説明して個々の同意を得た。</p>	<p>契約時に、「医療連携体制の指針」にて、看取りに関する考え方、意思確認方法について説明し同意を得ているが、必要に応じた文書は取り交わしておらず口頭での説明に終始している。重度化した場合など、チームで話し合い今後の支援や対応について検討している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針は、すでに明文化しているが、早い段階からの説明や確認事項など事業所ででき得るケアについて具体化し、本人、家族の意思確認が口頭だけでなく、文書化されることが望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員一人ひとりの急変時、事故発生における緊急マニュアルを作成し共有している。AED等の使用訓練を今年度は実施予定である。内部研修会においても当施設で用意しているAEDの取り扱いの説明等を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を年に2回消防署や近隣住民の協力のもと実施している。防火管理者取得者を各ユニットに1人配置し、災害対応マニュアルをもとに職員間で意識の共有を図っている。また消防設備は保守点検を行なっている。</p>	<p>年2回昼夜想定での避難訓練を実施している。地域の消防隊の協力、法人の協力体制が確保されており、火災だけでなく地震に関しても災害マニュアルにて周知している。水やカップめんなど備蓄も確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大事にするため誇りやプライバシーを損ねない様な言葉かけに努めており、通常業務内においても職員間で気付いたことなどをその都度、確認をとりあっている。	認知症勉強会の中で、プライバシーの重要性について学んでいる。年長者には敬意を払い、馴れ合いになることがないように常に、誇りやプライバシーに配慮してケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○○して下さいという関わり方でなく、入居者様に声かけをしながら選択していただけるような場を提供し、また本人様の自己決定を尊重している。声かけ時の些細なことも注意深く観察するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中にも、個々の生活ペースを重視し、例えばリビングではなく居室で過ごしたいという本人様の意向も大切に、一人ひとりの希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣服の選択や整髪、洗面等の身だしなみについては、自分で行える方に対しては自立せて頂き、介助のみにでしか行えない方に対しても配慮し、好きな色などを事前に把握し、起床時に衣類を選択してもらうなど支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と同じ内容で同じ時間に食している。個々で嗜好の違いがあるので配慮しながら食卓を囲む楽しい時間を提供できるように支援している。	1週間ごとに職員が交代で献立を作っているが、法人の管理栄養士がおすすめ料理をアドバイスしてくれたり、行事食（寿司、ケーキ作り、餅つき、だんご）やおやつは、芋天など手作りしている。また、皮むき、配膳は利用者の手伝いをもらい、職員と一緒に菜園で収穫した野菜を調理して食事の準備をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、隣接する協力特養に所属する管理栄養士より助言をいただきながら献立を作成し形態についても能力に応じて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の入居者様の状態に応じて、食前の顔の体操、毎食後の口腔内清掃を行っている。入居者様によっては、食後は必ず口腔内の清掃（歯磨き）に行かれるなどサービス利用で習慣となった方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼夜に限らず排泄パターンに応じて支援を行っている。尿意・便意が表出されない方に対してはある程度排泄パターンに応じて排泄介助を支援し、失敗を減らすよう努めている。また排泄のサインに気付いていけるように職員間で意見交換をしている。	排泄の声かけは、個別に異なるが、肩を軽くたたき誘導したり、さりげなく誘導して排泄の自立を促している。特に本人の誇りや自尊心に配慮して、本人のサインを見逃さずタイミングを図り、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分に関してはお茶、牛乳、ヨーグルト、紅茶など組み合わせて提供している。日々の関りの中で、散歩・ラジオ体操等を取り入れ便秘解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	職員の勤務ローテーションの関係により曜日、時間帯は固定化しているのが現状であるが、常に本人様の意向にあった入浴支援の在り方について考えている。	週3～4回程度、午後から入浴支援している。必要に応じて異性介助もするが現在はない。本人の希望や必要性に応じてチームプレイなどにより一人ひとりに合わせた入浴の支援をおこなっている。入浴剤の活用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前は、居室の環境づくりをし、安眠できるように支援している。夜間も巡視を通じて、室温・湿度等に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携記録に、服薬の目的・副作用等が記入された用紙を綴じており、いつでも職員が情報を把握できるように努めている。服薬後の経過等は、看護師に報告し、看護師が記録簿に記入し医師と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事行為などを皆でする場合においても、感謝の言葉かけを忘れず、本人様が自身の役割と意欲的に思ってくださいよう支援している。また、その方にあった気晴らしの場面（煙草や読書など）を本人様にに応じて提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出時の歩行が困難な方については、施設の車椅子を利用し外出支援をしている。またご家族様に声かけをし、本人様と外出する機会をつくっていただけるといったような家族支援も合わせて行なっている。ご家族様と一緒に外食や墓参りなど、サービス担当者会議においても、計画作成担当者からご家族様に対して協力をお願いしている。	年の初めには、初詣が恒例になっている。花見見物やお釈迦祭り、稚児祭りなどは毎年利用者も楽しみにしている。車いすで庭や近所を散歩したり、家族にも協力をもらって外食、お墓参り、お寺参りをする利用者もいる。事業所は、戸外に出かける機会を積極的に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在金銭管理は行っていないが、中にはご家族の許可を得て小額のお金を持っていらっしゃる方が居られ、欲しい物を職員に頼まれたり、ご希望がある際には、実際に地域のお店までご支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自宅や家族に連絡をとりたいなどご希望があった場合など、電話や手紙等での支援に努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日光の調節はカーテンで行い、室温等も心地良い温度に心掛けている。居室前には名前札を掛けている。共有スペース前には場所の記名をして認識して頂く工夫をしている。</p>	<p>玄関は、二重の引き戸になっていて、椅子が置いてあり靴が容易に履けるようにしてある。天井が高く天窓があるが、すだれを活用して温度調整している。リビングの床より一段高く掘りコタツが設けてある。オープンキッチンで職員の顔が伺え匂いや音など五感を刺激して家庭的に過ごせる工夫がしてある。居室と居室の間には、ソファとテレビが置いてあり、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮されている。壁には、書写、折り紙などの作品が展示されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを配置したり、備え付けの畳の上で休憩できたりとお独りの時間にも配慮をしている。また、畑側非常口前ホールで、畑を見ながら入居者様同士が談笑するような居場所になれるよう支援している。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居日の前に、本人様やご家族様と相談しながらご自宅より使い慣れた家具等を持ってきていただくことで、自宅から環境が変わることへの住み替えのダメージが最小限になるように努めている。</p>	<p>ベッドはそれぞれの身体状況に合わせて選定している。テレビ、仏壇、ソファ、机など馴染みのものを持ち込み居心地よく過ごせる工夫をしている。「避難済」の札が居室の目印になっている。ポータブルトイレには目隠しの布を使用している方もいる。本人の状況に応じて環境整備している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ハード面に関しては個人の身体機能に応じて出来るだけ安全かつ自立に向けて環境整備を行っている。しかし必ずしも万全ではないが、「できないこと」を支援し「できること」に変え自立に向けての支援を行っている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない